

第2部 実践編

動画時間：約50分



アジェンダ

< 第2部 実践編 >

6. データシートの基本構造

- 6-1. データシートの構成
- 6-2. 化学物質が持つ情報
- 6-3. 材料データシートの作成
- 6-4. 循環材料を含む材料のソース
- 6-5. アプリケーションコード

7. データシートの送受信

- 7-1. データシートの送信とは？
- 7-2. 送信モードの違いと送信後の流れ
- 7-3. エラーチェック
- 7-4. データシートの転送
- 7-5. 受信したデータシートの取り扱い
- 7-6. データシートの責任
- 7-7. 送信済み・受信済みデータシートの検索

8. IMDSの役立つ機能

- 8-1. データシートの分析
- 8-2. Where-used分析
- 8-3. 権限設定

9. 規制ウィザード

- 9-1. 規制ウィザードの仕組み
- 9-2. 規制ウィザードで伝達できること

10. PCFの伝達機能

- 10-1. PCF (Product Carbon Footprint)の入力について

11. その他（関連サービス、用語集）

- 11-1. IMDS Connect
- 11-2. (付録) IMDS用語集



アジェンダ

< 第2部 実践編 >

6. データシートの基本構造

- 6-1. データシートの構成
- 6-2. 化学物質が持つ情報
- 6-3. 材料データシートの作成
- 6-4. 循環材料を含む材料のソース
- 6-5. アプリケーションコード

7. データシートの送受信

- 7-1. データシートの送信とは？
- 7-2. 送信モードの違いと送信後の流れ
- 7-3. エラーチェック
- 7-4. データシートの転送
- 7-5. 受信したデータシートの取り扱い
- 7-6. データシートの責任
- 7-7. 送信済み・受信済みデータシートの検索

8. IMDSの役立つ機能

- 8-1. データシートの分析
- 8-2. Where-used分析
- 8-3. 権限設定

9. 規制ウィザード

- 9-1. 規制ウィザードの仕組み
- 9-2. 規制ウィザードで伝達できること

10. PCFの伝達機能

- 10-1. PCF (Product Carbon Footprint)の入力について

11. その他（関連サービス、用語集）

- 11-1. IMDS Connect
- 11-2. (付録) IMDS用語集

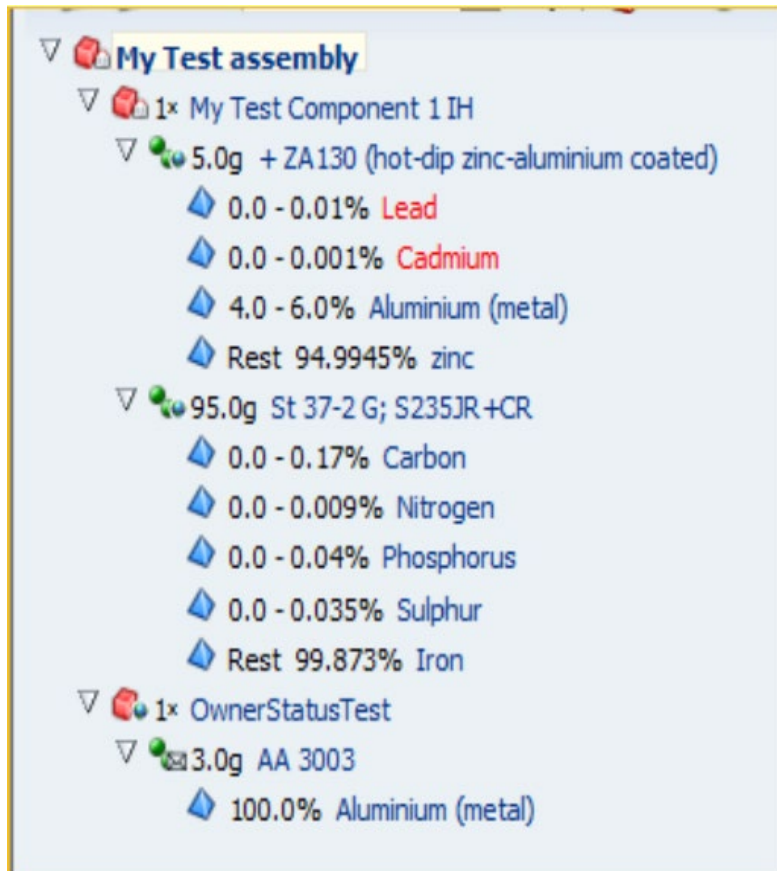






6-1. データシートの構成①

IMDSのデータシートは階層の分かれたツリー構造



- IMDSでやりとりするデータシート(MDS)は「コンポーネント」、「材料」、「化学物質」が木と枝葉のようにつながった階層構造になっています。



データの種類	説明
コンポーネント 	<ul style="list-style-type: none">材料、セミコンポーネントが集まってコンポーネントとなるアセンブリまたは質量の決まった部品
セミコンポーネント 	<ul style="list-style-type: none">アセンブリまたは製品になる前に加工を必要とする複合材料 例) 鉄板、被覆材など
材料 	<ul style="list-style-type: none">化学物質が集まって材料となるこれ以上機械的に分離されない均質な状態
化学物質 	<ul style="list-style-type: none">データを構成する最小単位要申告(D)・禁止(P)といったフラグが設定されている

< 関連する情報 >

ユーザーマニュアル：3.1～3.3

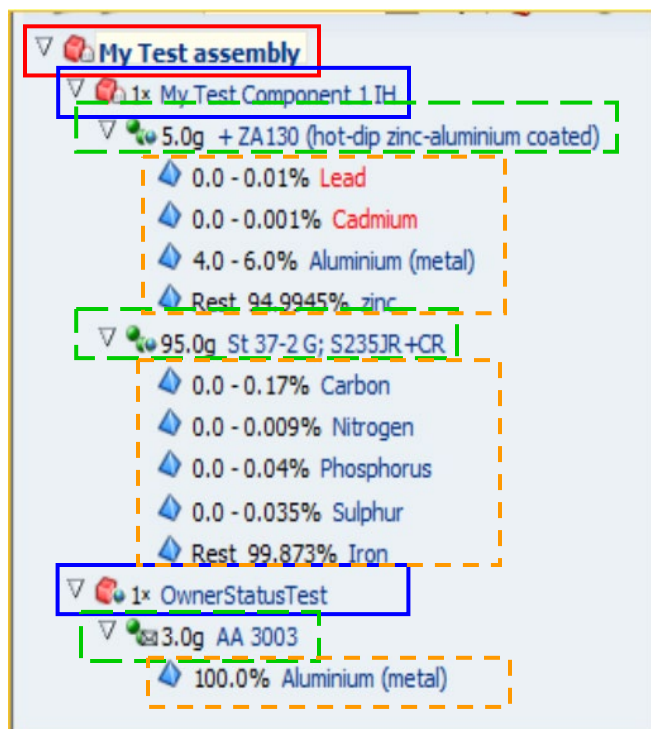
FAQ：材料、セミコンポーネント、コンポーネントの違いは何ですか？

[IMDS Information Pages - IMDSでの入力内容 - IMDS Public Pages](#)

図：データシートの例（IMDSユーザーマニュアルver.15.2より抜粋）

6-1. データシートの構成② JAPIAシートとIMDSの比較

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	13	14	15	16	17	18	19	20	23	24	25	26	
納入部品					部品構成						構成材料						物質						
連番	納入部品番号	納入部品名称	納入部品質量 [g/部品]	設計変更番号	登録済 区分	構成 番号	構成部品 番号	構成部品名称	構成部品質量A [g/個]	構成部品数量 [直上構成部品]	構成材料名称	材料商品名	材料質量 [g/構成部品]	材料規格	材料コード (金属・その他)	材料記号 (樹脂・ゴム)	VDA材料分類 コード	含有数 整理番号	プロセス ケミカルの 存在形態	物質コード	物質名称	物質 含有率	
1	11111	My Test assembly	103			1																	
2	11111	My Test assembly				2	22222	My Test Component 1 IH	100	1	Zinc alloy hot dip ga		5	JAMAH4444	HDZN		3.3			7439-92-1	Lead Pb	0.005	
3	11111	My Test assembly				2	22222	My Test Component 1 IH		1	Zinc alloy hot dip ga			JAMAH4444	HDZN		3.3			7440-43-9	Cadmium Cd	0.0005	
4	11111	My Test assembly				2	22222	My Test Component 1 IH		1	Zinc alloy hot dip ga			JAMAH4444	HDZN		3.3			7429-90-5	Aluminum Al	5	
5	11111	My Test assembly				2	22222	My Test Component 1 IH		1	Zinc alloy hot dip ga			JAMAH4444	HDZN		3.3			7440-66-6	Zinc Zn	94.9945	
6	11111	My Test assembly				2	22222	My Test Component 1 IH		1	Steel (Unalloyed, low	95		EN10025	S235JR		1.1.1			7440-44-0	Carbon C	0.085	
7	11111	My Test assembly				2	22222	My Test Component 1 IH		1	Steel (Unalloyed, low			EN10025	S235JR		1.1.1			7727-37-9	Nitrogen N/N2	0.0045	
8	11111	My Test assembly				2	22222	My Test Component 1 IH		1	Steel (Unalloyed, low			EN10025	S235JR		1.1.1			7723-14-0	Phosphorus P	0.02	
9	11111	My Test assembly				2	22222	My Test Component 1 IH		1	Steel (Unalloyed, low			EN10025	S235JR		1.1.1			7704-34-9	Sulfur S	0.0175	
10	11111	My Test assembly				2	22222	My Test Component 1 IH		1	Steel (Unalloyed, low			EN10025	S235JR		1.1.1			7439-89-6	Iron Fe	99.873	
11	11111	My Test assembly				2	33333	OwnerStatasTest	3	1	Aluminium/Other Al	3		JAMAA4444	AL AA3003		2.1.1			7429-90-5	Aluminum Al	100	



- JAPIAシートではCSV形式で横並びであった構成が、IMDSではコンポーネント→材料→化学物質のツリー構造で表現されます。
- リサイクル、BPRなどその他の情報については、IMDSでは別途専用のウィザードで入力します。
 - 「6-4. 循環材料を含む材料のソース」、「9-2. 規制ウィザードで伝達できること」を参照。

図：データシートの例（IMDSユーザーマニュアルver.15.2より抜粋）

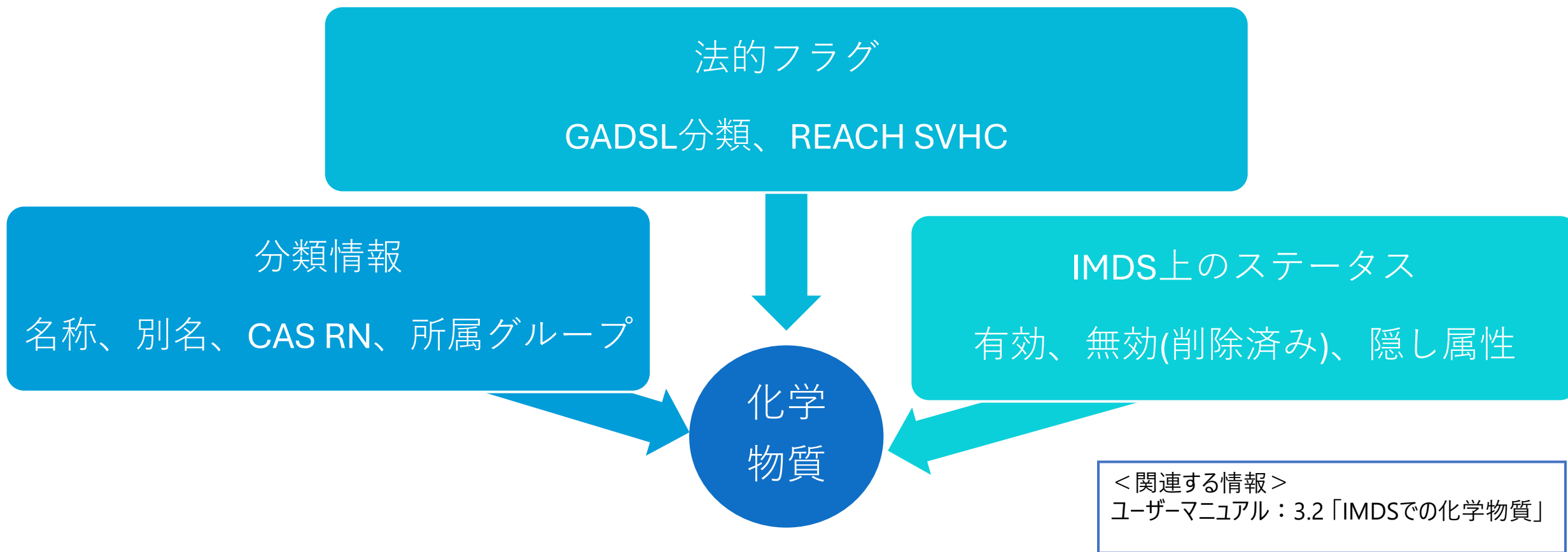


6-2. 化学物質が持つ情報

化学物質は様々な情報を持っている



- IMDSにおける化学物質には分類情報や法的フラグ、IMDS上のステータスなど様々な情報が付与されています。データシートを作成すれば、これらの様々な情報をIMDSの検索機能を用いて管理・確認することができます。

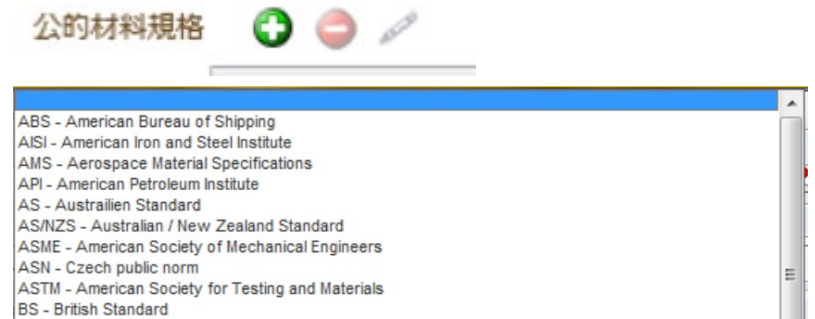
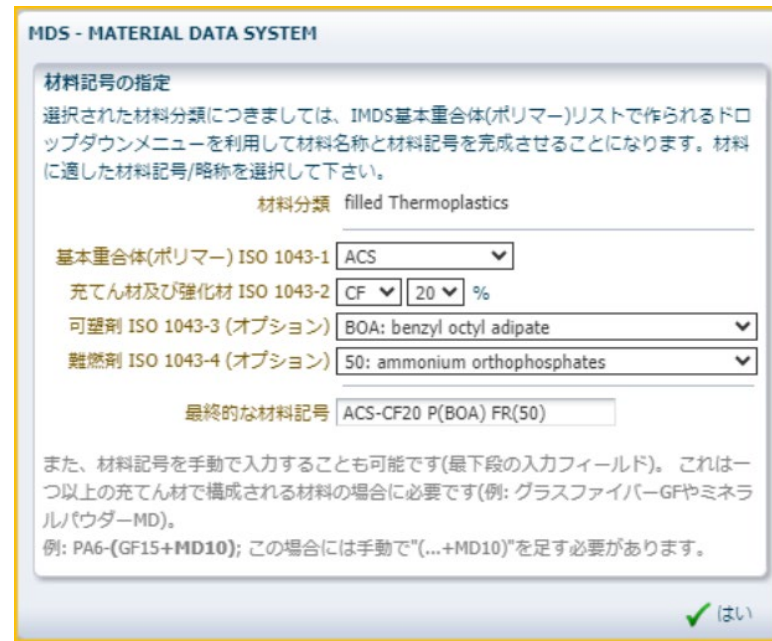


6-3. 材料データシートの作成①

リストから選択しながら材料データを作成する



- 最も基本的なデータシートである材料を作成するためには、まず材料分類を選択します。IMDSにはVDA材料分類に基づいた一覧が準備されています。
- 一部の材料分類については、追加で材料記号を選択できます。これは材料の入力をする際の手助けとなります。
- 特に金属については、公的材料規格としてIMDSコミッティーで作成された標準材料を選択することもできます。ただし標準材料は自社の材料と一致している場合にのみ使用できることに注意が必要です。



< 関連する情報 >

ユーザーマニュアル：3.3. 材料とコンポーネントのデータシート
レコメンデーション001 Annex 1：1.2節 材料分類を選択するためのフローチャート

FAQ：材料分類の日本語訳はありますか？

IMDS材料分類 英日対照表 (ver.1.30)

[IMDS Information Pages - FAQ\(よくあるご質問集\) - IMDS Public Pages](#)

図：材料データ作成の流れ

6-3. 材料データシートの作成②

材料を構成する化学物質を追加する



- 材料が作成できたら、そこに含まれる化学物質を選択します。専用のウィザード画面からCAS RNや物質グループで検索して追加します。
- 化学物質を選択したら、合計が100%となるようにそれぞれの含有率を入力します。

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

検索条件

名称 / 別名

CAS No.

EU-Index

EINECS-No.

GADSL: 要申告 GADSL.org

GADSL: 禁止物質

REACH-SVHC

グループ SCIP SVHC

検索

表示 メニュー エクスポート

名称	CAS No.	EU-Index	EINECS-No.	別名	GADSL / SVHC
(+)-1,7,7-Trimethyl-3-(phenylmethylene)bicyclo(2.2.1)heptan-2-...	15087-24-8	-	252-857-7	Bicyclo(2.2.1)heptan-2-one, 1,7,7-trimethyl-3-(phenyl...	SVHC
(1)-1,7,7-Trimethyl-3-((4-methylphenyl)methylene)bicyclo(2.2.1)...	36861-47-9	-	253-242-6	Bicyclo(2.2.1)heptan-2-one, 1,7,7-trimethyl-3-((4-meth...	SVHC
1,1'-[Ethane-1,2-diylbis(oxy)]bis[2,4,6-tribromobenzene]	37853-59-1	-	253-692-3	Benzene, 1,1'-[1,2-ethanediylobis(oxy)]bis[2,4,6-tribromo...	D/SVHC
1,1,2,2,3,3,4,4,4-Nonafluorobutane-1-sulphonic acid	375-73-5	-	206-793-1	1-Butanesulfonic acid, 1,1,2,2,3,3,4,4,4-nonafluoro-	D/SVHC
1,2,3-Trichloropropane	96-18-4	602-062-00-X	202-486-1	-	D/SVHC
1,2,5,6,9,10-Hexabromocyclododecane	3194-55-6	-	221-695-9	Cyclododecane, 1,2,5,6,9,10-hexabromo-	P/SVHC
1,2-Benzenedicarboxylic acid, bis(2-methoxyethyl) ester	117-82-8	-	204-212-6	Phthalic acid, bis(2-methoxyethyl) ester (8CI)	DP/SVHC
1,2-Benzenedicarboxylic acid, bis(3-methylbutyl) ester (9CI)	605-50-5	-	210-088-4	Diisopentyl phthalate	DP/SVHC
1,2-Benzenedicarboxylic acid, di-C6-10-alkyl esters	68515-51-5	-	271-094-0	Di(C6-C10)alkyl phthalate	DP/SVHC
1,2-Benzenedicarboxylic acid, di-C6-8-branched alkyl esters, C7-...	71888-89-6	-	276-158-1	Diisoheptyl phthalate	DP/SVHC
1,2-Benzenedicarboxylic acid, di-C7-11-branched and linear alkyl...	68515-42-4	-	271-084-6	Heptylundecylphthalate	DP/SVHC
1,2-Benzenedicarboxylic acid, dihexyl ester, branched and linear	68515-50-4	-	271-093-5	Branched and linear dihexyl phthalate	DP/SVHC
1,2-Benzenedicarboxylic acid, dipentyl ester, branched and linear	84777-06-0	-	284-032-2	Diisopentylphthalate	DP/SVHC
1,2-Benzenedicarboxylic acid, mixed decyl and hexyl and octyl di...	68648-93-1	-	272-013-1	-	DP/SVHC
1,2-Bis(2-methoxyethoxy)ethane	112-49-2	-	203-977-3	2,5,8,11-Tetraoxadodecane	SVHC

メニュー 見つかったデータ 296

適用 キャンセル

図：化学物質選択の例

詳細

▼ 共通情報

Type 化学物質

名称 Lead

CAS No. 7439-92-1

EINECS-No. 231-100-4

EU-Index -

GADSL分類 要申告 / 禁止物質 GADSL.org

REACH-SVHC はい

機密扱い

▼ 数量と質量

含有率 範囲値

0.0 - 0.2 %

代表値 0.1%

▼ 化学物質グループ

図：含有率の入力箇所

< 関連する情報 >

FAQ：材料の中の化学物質を開示する制限はありますか？

[IMDS Information Pages - 材料 - IMDS Public Pages](#)

6-3. 材料データシートの作成③

材料データシート作成の注意点



- 材料データシートは必ず均質材料ごとに作成する
 - 「均質」とは、機械的に複数以上の異なる材料へ分離できない一貫した材料組成のことです。
(詳細な定義はレコメンデーションIMDS 001 Annex I, 1.1節に記載されています。)
 - 均質材料ごとに材料データシートを作成しないと、法規に適合しない含有率算出となり、規制への不適合を見落とす要因となります。

Component	Material	Lead	Cadmium	Aluminium (metal)	Carbon	Nitrogen	Phosphorus	Sulphur	Rest
5.0g + ZA130 (hot-dip zinc-aluminium coated)	0.0 - 0.01%	0.0 - 0.01%	0.0 - 0.001%	4.0 - 6.0%					94.9945% zinc
	0.0 - 0.17%				0.0 - 0.17%				
	0.0 - 0.009%				0.0 - 0.009%				
	0.0 - 0.04%				0.0 - 0.04%				
95.0g St 37-2 G; S235JR+CR	0.0 - 0.035%						0.0 - 0.035%		
	0.0 - 0.035%						0.0 - 0.035%		
	0.0 - 0.035%						0.0 - 0.035%		
	0.0 - 0.035%						0.0 - 0.035%		

表面処理

↑
それぞれが均質材料
↓

母材

<ポイント>

多くの法規制は均質材料ごとの含有率で適合 or 不適合を判断します。
レコメンデーションの規則に基づいてIMDS作成しておくことで、その後の遵法管理を適切に実施することができます。

<関連する情報>

レコメンデーション001 Annex 1, 1.1節
FAQ：IMDSにおける均質材料の考え方について - 均質材料とは何ですか?
[IMDS Information Pages - 材料 - IMDS Public Pages](#)

図：表面処理を施した製品のデータシートの例 (IMDSユーザーマニュアルver.15.2より抜粋)

6-4. 循環材料を含む材料のソース

材料のリサイクル情報も入力できる



- 材料データシートには、化学物質以外にもリサイクル情報も入力することができます。
- VDA材料分類が5. x の時には入力が必須です。
 - リサイクル材を使っていない場合には「いいえ」の回答が必須となります。

<用語>

・メカニカルリサイクル

収集された廃棄物を機械的・物理的プロセスによって再生された材料。

・ケミカルリサイクル

主に有機材料において、ポリマーをモノマーまで分解し、再度、樹脂に重合させるなどして、再生された材料。

・バイオベース材料

生物（動・植物）を由来とする原材料。天然ゴム、綿、麻、サトウキビなどから作られる材料が該当する。

<関連する情報>

ユーザーマニュアル：3.3.10 循環材料を含む材料のソース
レコメンデーション025

メカニカルリサイクル & ケミカルリサイクル

The screenshot shows the 'MDS - MATERIAL DATA SYSTEM' interface for entering recycling information. It is titled '循環材料を含む材料のソース' (Source of materials containing recycled materials). The interface includes several sections with input fields for percentages and dropdown menus for 'いいえ' (No) and 'はい' (Yes). The sections are:

- 無機または化石ベース材料の割合** (Inorganic or fossil-based material ratio): 0.0% to 100.0%.
- 材料にリサイクル材が含まれますか?** (Does the material contain recycled material?): 'はい' (Yes).
- 一次無機または化石ベース材料の割合** (Primary inorganic or fossil-based material ratio): 0.0% to 100.0%.
- リサイクルの割合** (Recycling ratio): 0.0% to 100.0%.
- メカニカルリサイクルの割合** (Mechanical recycling ratio): 0.0% to 100.0%.
- メカニカルリサイクル** (Mechanical recycling):
 - プレコンシューマリサイクルの割合 (Pre-consumer recycling ratio): 0.0% to 100.0%.
 - ポストコンシューマリサイクルの割合 (Post-consumer recycling ratio): 0.0% to 100.0%.
- ケミカルリサイクルの割合** (Chemical recycling ratio): 0.0% to 100.0%.
- ケミカルリサイクル** (Chemical recycling):
 - プレコンシューマリサイクルの割合 (Pre-consumer recycling ratio): 0.0% to 100.0%.
 - ポストコンシューマリサイクルの割合 (Post-consumer recycling ratio): 0.0% to 100.0%.
 - 取得済み認可 (Obtained approval): 'いいえ' (No).
- バイオベース材料の割合** (Bio-based material ratio): 0.0% to 100.0%.
- バイオベース材料** (Bio-based material):
 - 一次バイオベース材料の割合 (Primary bio-based material ratio): 0.0% to 100.0%.
 - 二次バイオベース材料の割合 (Secondary bio-based material ratio): 0.0% to 100.0%.
 - 取得済み認可 (Obtained approval): 'いいえ' (No).

Buttons for '適用' (Apply) and 'キャンセル' (Cancel) are at the bottom right.

図：リサイクル情報の入力例（IMDSレコメンデーション025より抜粋）

6-5. アプリケーションコード

アプリケーションコードで規制物質の使用用途を示す



- IMDSには多くの化学物質が登録されており、その中には「要申告または禁止」と設定されている物質があります。
- その中でも一部の物質にはアプリケーション（法的な必要条件に基づいて定義された期間で有効な用途）が定義されています。
- 該当する物質を使用する場合には、その物質を使用する用途をアプリケーションコードで示す必要があります。

< 物質とアプリケーションコードの例 >

- 鉛
 - ID 70 - 0.35重量%以下の鉛を含む連続処理亜鉛めっき鋼板
 - ID 54 - 電子基板上、及び、ガラス上に適用するはんだ以外の電気用途のはんだ中の鉛
- 水銀
 - ID 25 - ディスチャージランプおよびインストルメントパネル照明
- カドミウム
 - ID 29 - 電気自動車用バッテリー
- PAHs
 - ID 37 - 10mg/kg を超えるPAHs を含む伸展油 (タイヤ用途に限る)

他にも様々なアプリケーションコードがあります。

< 関連する情報 >

ユーザーマニュアル：3.3.13 IMDS 化学物質のアプリケーションコード
FAQ：アプリケーションコードの日本語訳はありますか？

[IMDS Information Pages - FAQ\(よくあるご質問集\) - IMDS Public Pages](#)

アジェンダ

< 第2部 実践編 >

6. データシートの基本構造

- 6-1. データシートの構成
- 6-2. 化学物質が持つ情報
- 6-3. 材料データシートの作成
- 6-4. 循環材料を含む材料のソース
- 6-5. アプリケーションコード

7. データシートの送受信

- 7-1. データシートの送信とは？
- 7-2. 送信モードの違いと送信後の流れ
- 7-3. エラーチェック
- 7-4. データシートの転送
- 7-5. 受信したデータシートの取り扱い
- 7-6. データシートの責任
- 7-7. 送信済み・受信済みデータシートの検索

8. IMDSの役立つ機能

- 8-1. データシートの分析
- 8-2. Where-used分析
- 8-3. 権限設定

9. 規制ウィザード

- 9-1. 規制ウィザードの仕組み
- 9-2. 規制ウィザードで伝達できること

10. PCFの伝達機能

- 10-1. PCF (Product Carbon Footprint)の入力について

11. その他（関連サービス、用語集）

- 11-1. IMDS Connect
- 11-2. (付録) IMDS用語集

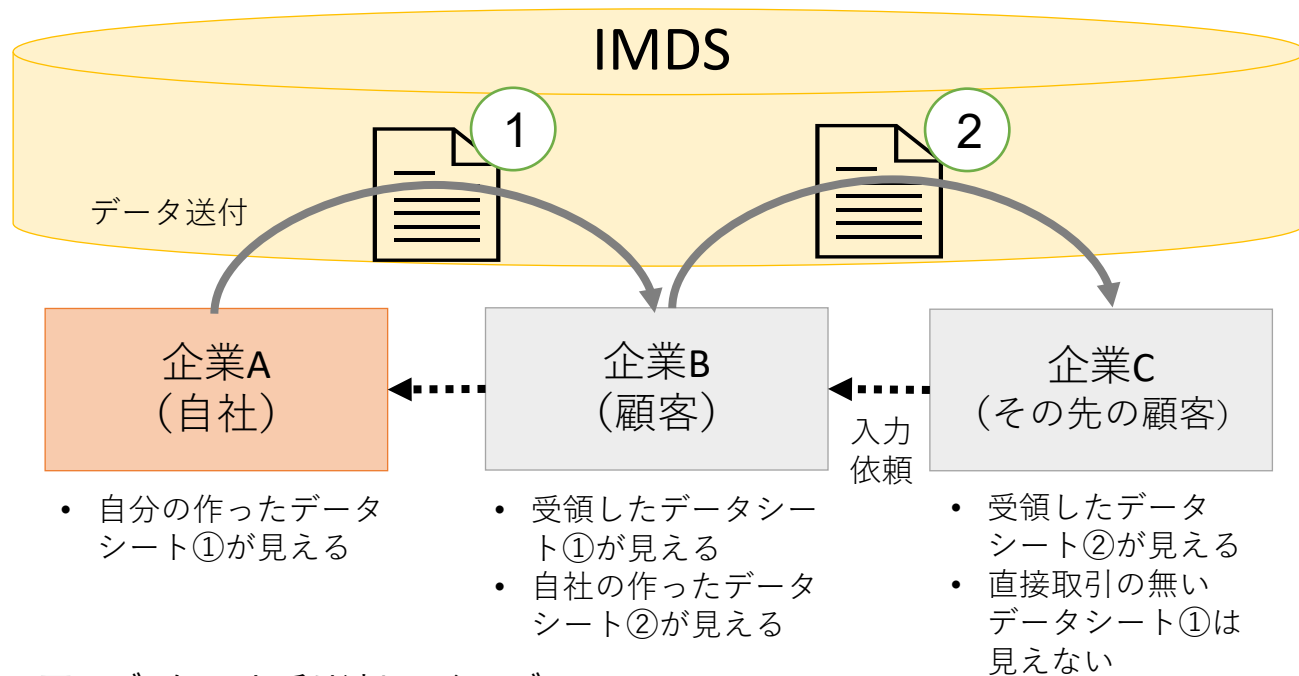


7-1. データシートの送信とは？①

データシートは直接、送受信した企業のみが閲覧できる



- IMDSにおけるデータシートの送信とは、送信先にデータシートへのアクセスを許可することです。
(Eメールのように実際のデータが送信されるわけではない。)
- 受け取った企業はそのデータシートの部品構成や化学物質の情報を自社のデータシートに組み込んで、さらに下流の企業へ送信することができます。ただしこのデータには、直接の送受信関係に無い企業の情報は含まれません。
- 含有物質管理に必要なデータは伝わりながらも、購買情報といった機密は保たれる仕組みになっています。



図：データシート受け渡しのイメージ

<ポイント>

- 全てのデータシートはIMDSサーバー上に存在します。送信とはデータシートへのアクセス権限を与えることです。
- 受信側(企業B)は受信したデータシート①の部品構成や化学物質情報を見ることができます。それを利用して自社のデータシート②を作成します。
- データシート②を受信したその先の顧客C社からは、直接取引の無いA社の企業情報は見ることはできません。

<関連する情報>

ユーザーマニュアル：4.1 サプライヤーから顧客へのデータ送信

7-1. データシートの送信とは？②

企業IDで送信先を指定する



- データシートの「送信先情報」から送信先を設定できます。
- 企業名などから検索することもできますが、事前に送信先の企業に「企業ID」を確認しておくスムーズです。

MDS - MATERIAL DATA SYSTEM

企業

企業名	<input type="text"/>	郵便番号	<input type="text"/>	企業のみ <input type="checkbox"/>
企業ID	<input type="text"/>	市町村名	<input type="text"/>	
組織	<input type="text"/>	国名	<input type="text"/>	
DUNSナンバー	<input type="text"/>			

検索

図：送信先情報の検索画面

<ポイント>

IMDSを利用する企業のなかには、その傘下に複数の「組織」を設定している場合があります。（事業所や工場など）
それぞれの組織にも個別に企業IDは設定されているため、どこに送信すればよいか事前に確認しておくことが大切です。

<関連する情報>

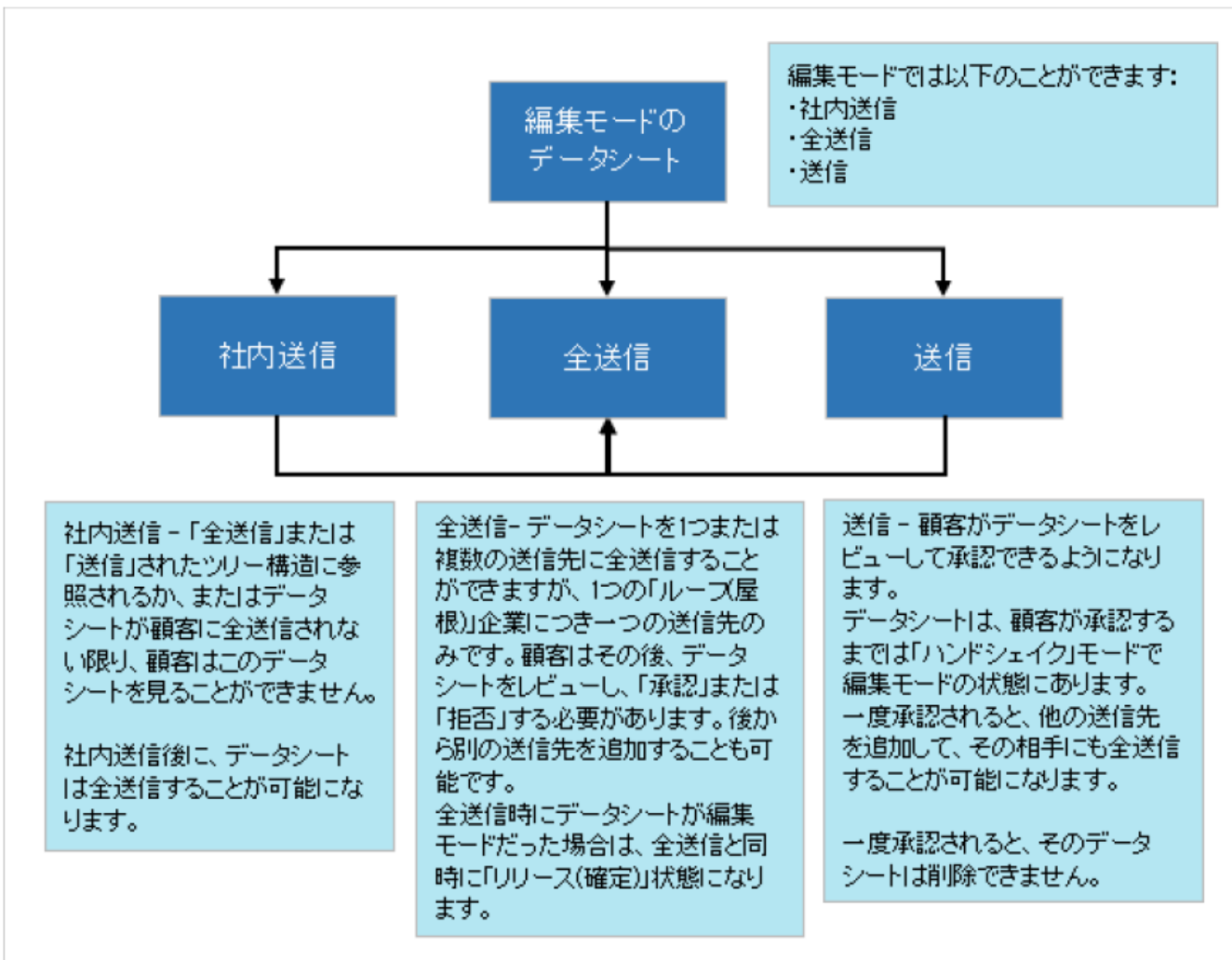
ユーザーマニュアル：3.3.15 送信先情報画面

7-2. 送信モードの違いと送信後の流れ①

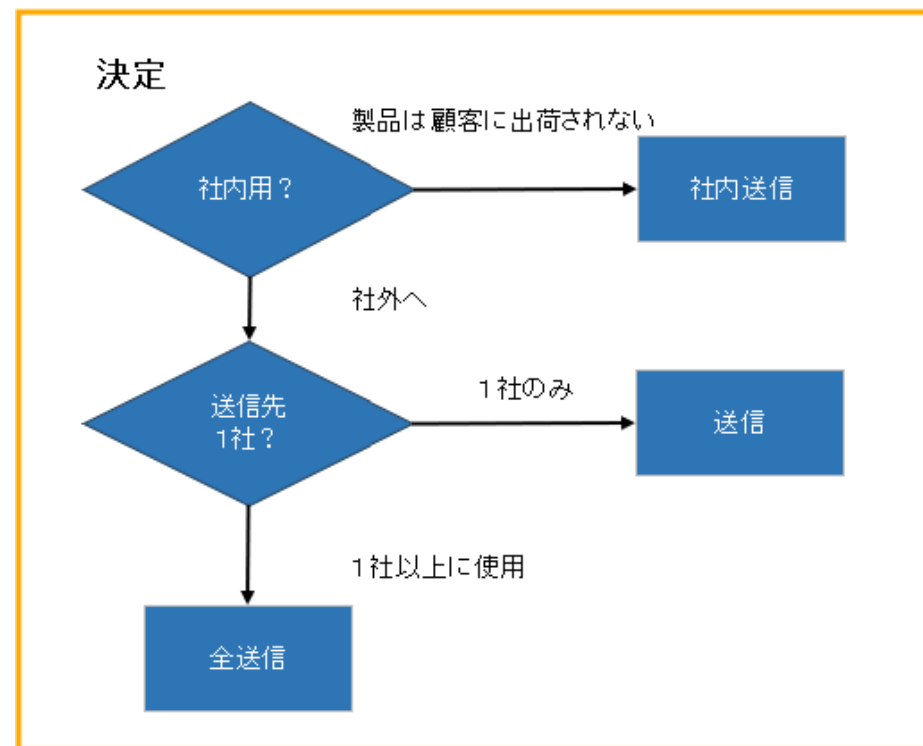
用途に応じて3つの送信モードを使い分ける



- 編集モードのデータシートは、送信のために「社内送信」、「送信」、「全送信」という3つのモードに切り替えることができます。



図：各送信モードの違い (IMDSユーザーマニュアルver.15.2より抜粋)



図：送信モードの選択チャート (IMDSユーザーマニュアルver.15.2より抜粋)

< 関連する情報 >
ユーザーマニュアル：3.3.16 データシートの社内送信/送信/全送信

7-2. 送信モードの違いと送信後の流れ②

データを修正しながら承認を目指す

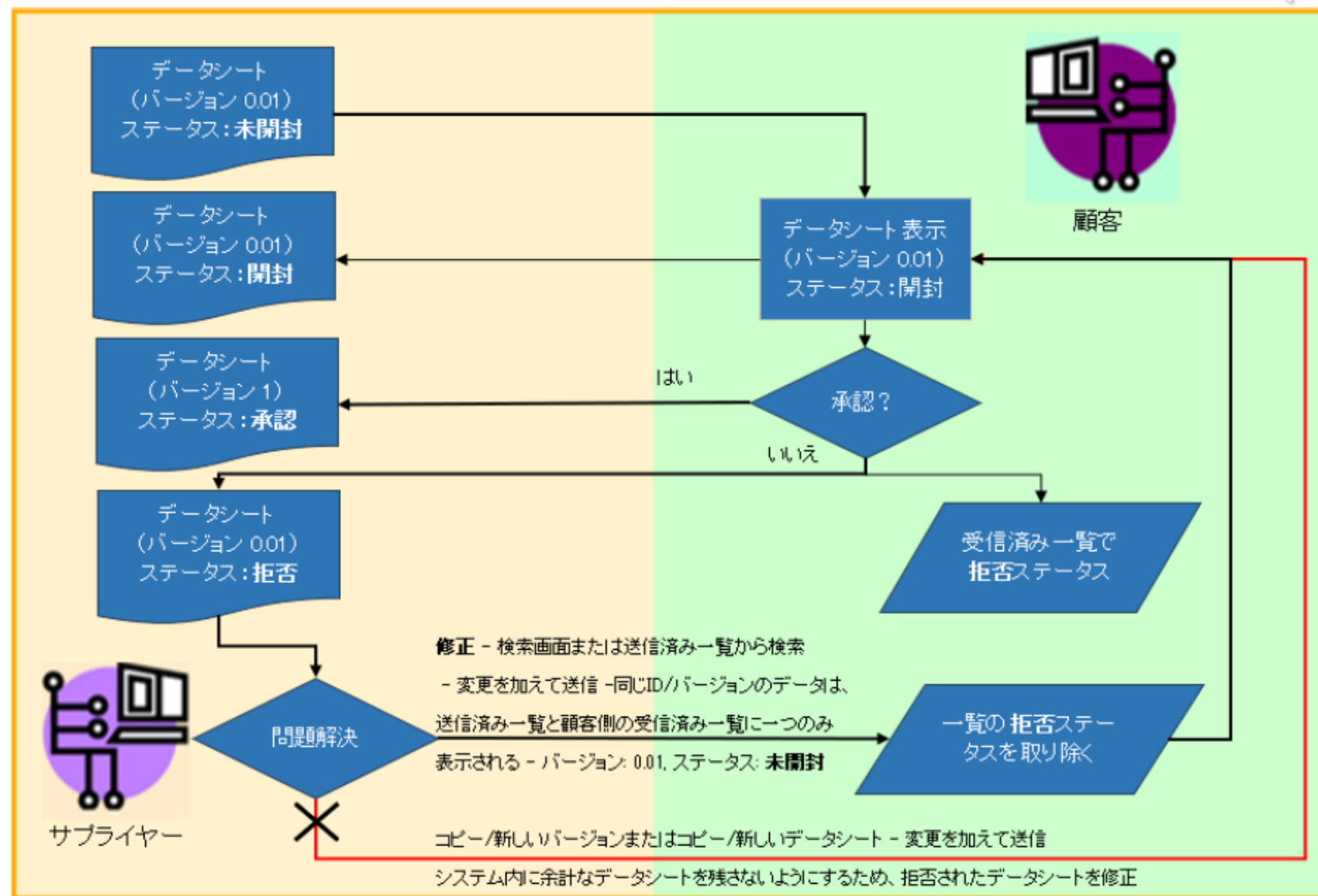
- 送信したデータシートは、顧客側が確認し「承認」 or 「拒否」の判断を行います。
- 拒否判定となった場合は、拒否理由を参考に該当箇所を修正して再送信します。

<ポイント>

拒否判定となった場合には、新たに作成するのではなく、拒否されたデータシートを修正します。これはシステム内に不要なデータを残さないために重要です。データの整理ができていれば、その後の含有物質管理もスムーズに行うことができます。

<関連する情報>

ユーザーマニュアル：3.3.16 データシートの社内送信/送信/全送信





図：送信後のサプライヤーと顧客のやりとり (IMDSユーザーマニュアルver.15.2より抜粋)



7-3. エラーチェック

エラーチェックでデータシートの問題点を確認できる



- データシートを開いて上部のツールバーから「エラーチェック」ができます。これはデータシートの内容を、IMDSの基本的なルールと照らし合わせてエラーメッセージを出力する機能です。
- エラーチェックを実行すると、「エラー」と「警告」の2種類が表示されます。
- 「エラー 」はIMDSの規則を満たしていなかったり、必須項目に欠落があることを示しています。エラーが残った状態では送信ができないため、全て修正する必要があります。
- 「警告 」はデータシートに特に注意すべき箇所があることを示しています。残っていても送信はできますが、顧客によっては修正を求められることもあります。
- エラーと警告についてはFAQに専用の項目が設けられています。このページでは日本語版のエラーコード一覧と修正方法も公開されています。

<ポイント>

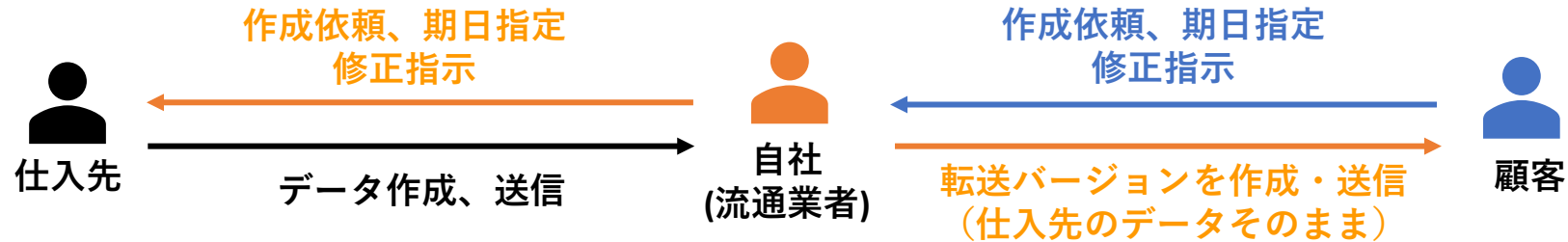
エラーと警告は異なるものであり、それぞれに合わせた対応が必要です。
エラー & 警告対応には役に立つコンテンツが多く掲載されています。
困った際には右記の「関連する情報」のコンテンツも参考にしてみてください。

<関連する情報>

- ・ユーザーマニュアル：3.3.17 エラーチェック
- ・FAQ「IMDSでのエラーと警告」
[IMDS Information Pages - IMDSでのエラーと警告 - IMDS Public Pages](#)
- ・警告に関するIMDSステアリングコミッティの見解
[Letter IMDS SC on Warnings](#)

7-4. データシートの転送

自社では変更を加えず、受信データそのままの転送バージョンを作成できる



図：転送バージョンを作成して送信するイメージ

- 仕入先から受信したデータシートに自社で変更を加える必要が無い場合には、その受信データをそのまま次の顧客へ受け渡すための「転送」バージョンを作成することができます。
- 「転送」は主に、製品の製造は行っていないがデータシートの提供は行っている流通業者などのサプライヤ向けの手法です。
- 「転送」では受信データシートの構成情報に変更を加えることはできません。受け取ったものを、そのままサプライチェーンの下流へ伝達する機能となっています。
- 「転送」バージョンを使用するためには以下のような制約があります。

- 送信元のサプライヤが「転送許可」のチェックボックスに✓を入れていないと転送はできない。
- 受領したサプライヤが事前にそのデータを承認していないと転送はできない。
- 転送バージョンのデータシートができるのは全送信のみ。送信や社内送信はできない。
- 自社で転送バージョンのデータシートを編集することはできない。

<ポイント>

転送バージョンは仕入先から受け取ったデータをそのまま顧客に受け渡す手法です。自社でデータに手を加えることはできません。


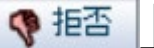
<関連する情報>

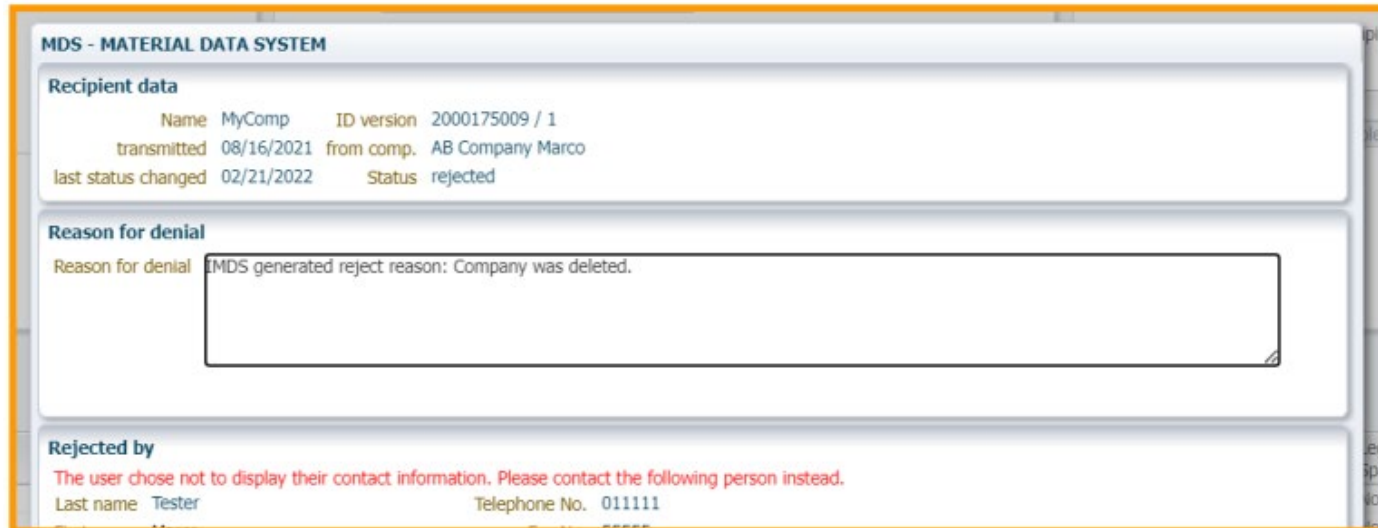
ユーザーマニュアル：3.3.18 データシートの公開と転送

7-5. 受信したデータシートの取り扱い

受信したデータシートに「承認」 or 「拒否」の判断を行う



- 仕入先から自社に送られてきたデータシートは「受信済み一覧」のページで確認できます。
- 受信したデータシートの内容を、レコメンデーションの規則や自社から提示しているルール、図面との整合性など様々な観点から精査し、問題が無いと判断した場合には「承認 
- 一方で受信したデータシートに修正が必要と判断した場合には「拒否 



図：拒否判定後の画面の例（IMDSユーザーマニュアルver.15.2より抜粋）

<ポイント>

受信したデータシートはステータスが「承認済み」とならなければ自社データシートへの組み込みなどはできません。
仕入先から受信したデータシートは放置せず、適切に「承認」 or 「拒否」の判定を行うことが大切です。

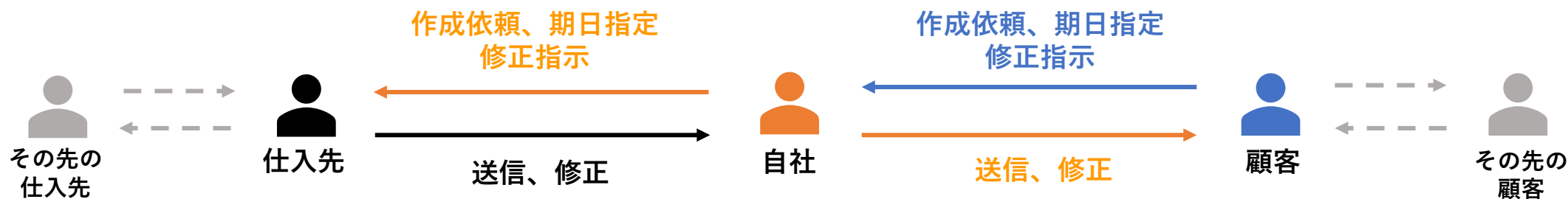
<関連する情報>

ユーザーマニュアル：5.2 受信済み一覧画面での承認/拒否

7-6. データシートの責任

IMDSデータシートはそれぞれの作成企業が責任を持つ

- 送受信される個々のIMDSデータシートは、その作成企業がその内容に責任を持ちます。
- そのため仮に仕入先から受信したデータシートに不備があった場合にも、受信側が勝手に内容を修正することはできません。
- データシートの修正が必要な場合には、仕入先に連絡して修正したデータシートを再送してもらう必要があります。



図：データシート作成依頼の流れ

<スケジュール管理も重要>

仕入先にIMDSデータシートの作成を依頼する際は、受信後の修正のやりとりも考慮したスケジュール管理が大切です。

その他にも受信後に自社内でデータシートを作成したり、自社から顧客に送信した後に修正対応をする日程も考慮する必要があります。



7-7. 送信済み・受信済みデータシートの検索

データシート送受信の記録を一元管理できる



- IMDSで送信/受信したデータシートは、後から検索して確認することができます。
- 製品名称や宛先、送受信日、現在のステータスなど様々な条件で検索することができるので、化学物質管理に役立ちます。

検索条件:

- 一般 / 日付: 名称, 部品番号/材料コード(社内), 部品番号/材料コード(社外), ID, 生産準備初期段階の「事前申告」データシート(Preliminary MDS), 日付 (送受信日(送信/全送信), 最終ステータス変更日)
- ステータス: 複合型 (全て, 未処理のデータシート, なし), シングル (未開封, 開封, 承認済み, 拒否, 編集済, 送信者による取り消し, 送信先での処理中), 転送データシートのみ (obsolete (旧式、廃型))
- 送信先: 組織, 送信先で検索可能, 送信先 (企業ID/組織ID), 送信先検索が無効になっています, 全ての組織を含める

タイプ	名称	ID/バージョン	部品番号/材料コード(社内)	部品番号/材料コード(社外)	送信日	送信先 (組織) [ID-No.]	サプライヤーコード	旧式スペアパーツ	ステータス	最終ステータス変更日	拒否の理由
	IMDS R14.0 Confidential declarable Subeta...	2000370240 / ...		1234	2023/01/24	Takahara3.Co.Ltd [900049]	12-345-6789	いいえ	未開封	2023/01/24	
	ECU Assy	2000251134 / 1		1111	2022/05/18	J-Supplier [900043]	12-3456-789	いいえ	承認済み	2022/05/18	Supplier code is n...
	Component_20210416	2000171147 / ...		1000	2021/04/16	Takahara3.Co.Ltd [900049]		いいえ	開封	2021/04/16	
	20140305_test	902118949 / 1...		1111	2019/04/26	Takahara3.Co.Ltd [900049]		はい	開封	2019/04/26	
	20181127_test	908409003 / 0...		1111	2018/11/27	Takahara3.Co.Ltd [900049]		いいえ	開封	2018/11/27	
	test_comp	908246732 / 0...		A1111	2018/10/10	Mazda Motor Corporation ...	90001	-	送信先での...	2018/10/10	
	Material_20160921	905228307 / 1...		1111	2018/03/30	Takahara3.Co.Ltd [900049]		-	編集済	2020/12/11	TEST
	Material_20160921	905228307 / 1		1111	2016/09/21	Takahara3.Co.Ltd [900049]		-	承認済み	2016/09/21	

<ポイント>
送受信したデータは自動的にアーカイブに整理されます。ステータスにより依頼の進捗状況も確認できます。

<関連する情報>
ユーザーマニュアル:
5.1 送信済み一覧
5.2 受信済み一覧画面での承認/拒否

図：送信済みデータシートの例 (IMDSユーザーマニュアルver.15.2より抜粋)

アジェンダ

< 第2部 実践編 >

6. データシートの基本構造

- 6-1. データシートの構成
- 6-2. 化学物質が持つ情報
- 6-3. 材料データシートの作成
- 6-4. 循環材料を含む材料のソース
- 6-5. アプリケーションコード

7. データシートの送受信

- 7-1. データシートの送信とは？
- 7-2. 送信モードの違いと送信後の流れ
- 7-3. エラーチェック
- 7-4. データシートの転送
- 7-5. 受信したデータシートの取り扱い
- 7-6. データシートの責任
- 7-7. 送信済み・受信済みデータシートの検索

8. IMDSの役立つ機能

- 8-1. データシートの分析
- 8-2. Where-used分析
- 8-3. 権限設定

9. 規制ウィザード

- 9-1. 規制ウィザードの仕組み
- 9-2. 規制ウィザードで伝達できること

10. PCFの伝達機能

- 10-1. PCF (Product Carbon Footprint)の入力について

11. その他（関連サービス、用語集）

- 11-1. IMDS Connect
- 11-2. (付録) IMDS用語集



8-1. データシートの分析

使用されている材料・化学物質を確認する



- IMDSを用いて化学物質管理を行うことの大きなメリットの一つが、データシートを分析できることです。
- データシートにどのような材料が使用されているか、どのような化学物質が含まれているか、その化学物質はどのようなグループ(規制)に該当するか...etc、様々な観点から分析することができます。

GADSL
Appl. rel. subst.
Biocides (GADSL)
California Proposition 65
Conflict Minerals
Critical Raw Materials
EU Deforestation Regulation (EUDR)
EU POP Regulation
Extended Minerals
GADSL
Medium Chain Chlorinated Paraffins (MCCP)
Other PFAS Substances
Per and Poly- fluoroalkyl substances (PFAS)
PFBS, salts and related compounds
PFCAs, salts and related compounds
PFDA, salts and related compounds
PFHxA, salts and related compounds
PFHxS, salts and related compounds
PFNA, salts and related compounds
PFOA, salts and related substances
PFOS, salts and related compounds

表示 ▾	📄 エクスポート	フィルター	GADSL ▾
化学物質グループ/一覧	CAS No.	化学物質	
<input type="checkbox"/>	7439-89-6	Iron	
<input type="checkbox"/>	7439-96-5	Manganese	
<input type="checkbox"/>	7440-47-3	Chromium	
<input type="checkbox"/>	7440-44-0	Carbon	
<input checked="" type="checkbox"/>	7440-21-3	Silicon	
<input checked="" type="checkbox"/>	7440-50-8	Copper	
<input type="checkbox"/>	7439-98-7	Molybdenum	
<input checked="" type="checkbox"/>	7429-90-5	Aluminium (metal)	
<input checked="" type="checkbox"/>	7723-14-0	Phosphorus	
<input type="checkbox"/>	7704-34-9	Sulphur	

図：化学物質分析 分析可能なグループとその分析例

<ポイント>

- データシートにどのような材料が含まれているか一覧化できます。
- 含まれている化学物質を一覧化し、それらが所属するグループ・規制を確認できます。
- 分析結果はエクセルに出力することもできます。

<関連する情報>

ユーザーマニュアル：6 IMDS-分析
6.1 データシート分析の詳細

8-2. Where-used分析

自社のデータシートを一括して分析する



- Where-used分析は自社のデータシートを対象に、特定の化学物質や材料などが“where used(どこで使われているか)”を一括して分析できる強力なツールです。
- 材料変更や顧客からの化学物質調査依頼など、多くの場面で活用できます。
- 受信・作成したデータシートが蓄積されるほど、その利用価値は高まっていきます。

図：Where-Used分析画面

< 設定できる分析条件 >

- ①分析対象の選択。材料や化学物質の他にアプリケーションコードなども分析対象に設定できる。
- ②分析対象の詳細。CAS RNなどを入力して分析対象を絞り込む。
- ③分析するデータシートの条件。特定期間に作成されたものなど条件を指定できる。
- ④データシートの詳細。自社作成、仕入先から受領など、データシートの条件を設定できる。

< 関連する情報 >

ユーザーマニュアル：6.2 Where-used分析

8-3. 権限設定

必要に応じてユーザー権限を個別に管理する



- カンパニーアドミニストレーターは、自社のユーザーごとに権限を付与・削除することができます。
- これはデータを閲覧・編集できるユーザーを明確にして、予期せぬ操作の防止や情報セキュリティの管理に役立ちます。
- 権限はリスト形式で細かく設定できますが、あらかじめIMDSが用意したプリセットを利用することもできます。

<ポイント>

- ユーザー権限の付与、削除はカンパニーアドミニストレーターが行います。
- データシートの閲覧、編集といった基本的なものから規制ウィザード、SCIP、PCFなど特定の機能に特化したものまで、様々な設定ができます。

<関連する情報>

ユーザーマニュアル：10.6 ユーザ-リリースノート 15.0

[IMDS Information Pages - 変更履歴リリース15.0 \(2025年7月5、6日\) - IMDS Public Pages](#)

図：ユーザー権限設定の例

アジェンダ

< 第2部 実践編 >

6. データシートの基本構造

- 6-1. データシートの構成
- 6-2. 化学物質が持つ情報
- 6-3. 材料データシートの作成
- 6-4. 循環材料を含む材料のソース
- 6-5. アプリケーションコード

7. データシートの送受信

- 7-1. データシートの送信とは？
- 7-2. 送信モードの違いと送信後の流れ
- 7-3. エラーチェック
- 7-4. データシートの転送
- 7-5. 受信したデータシートの取り扱い
- 7-6. データシートの責任
- 7-7. 送信済み・受信済みデータシートの検索

8. IMDSの役立つ機能

- 8-1. データシートの分析
- 8-2. Where-used分析
- 8-3. 権限設定

9. 規制ウィザード

- 9-1. 規制ウィザードの仕組み
- 9-2. 規制ウィザードで伝達できること

10. PCFの伝達機能

- 10-1. PCF (Product Carbon Footprint)の入力について

11. その他（関連サービス、用語集）

- 11-1. IMDS Connect
- 11-2. (付録) IMDS用語集

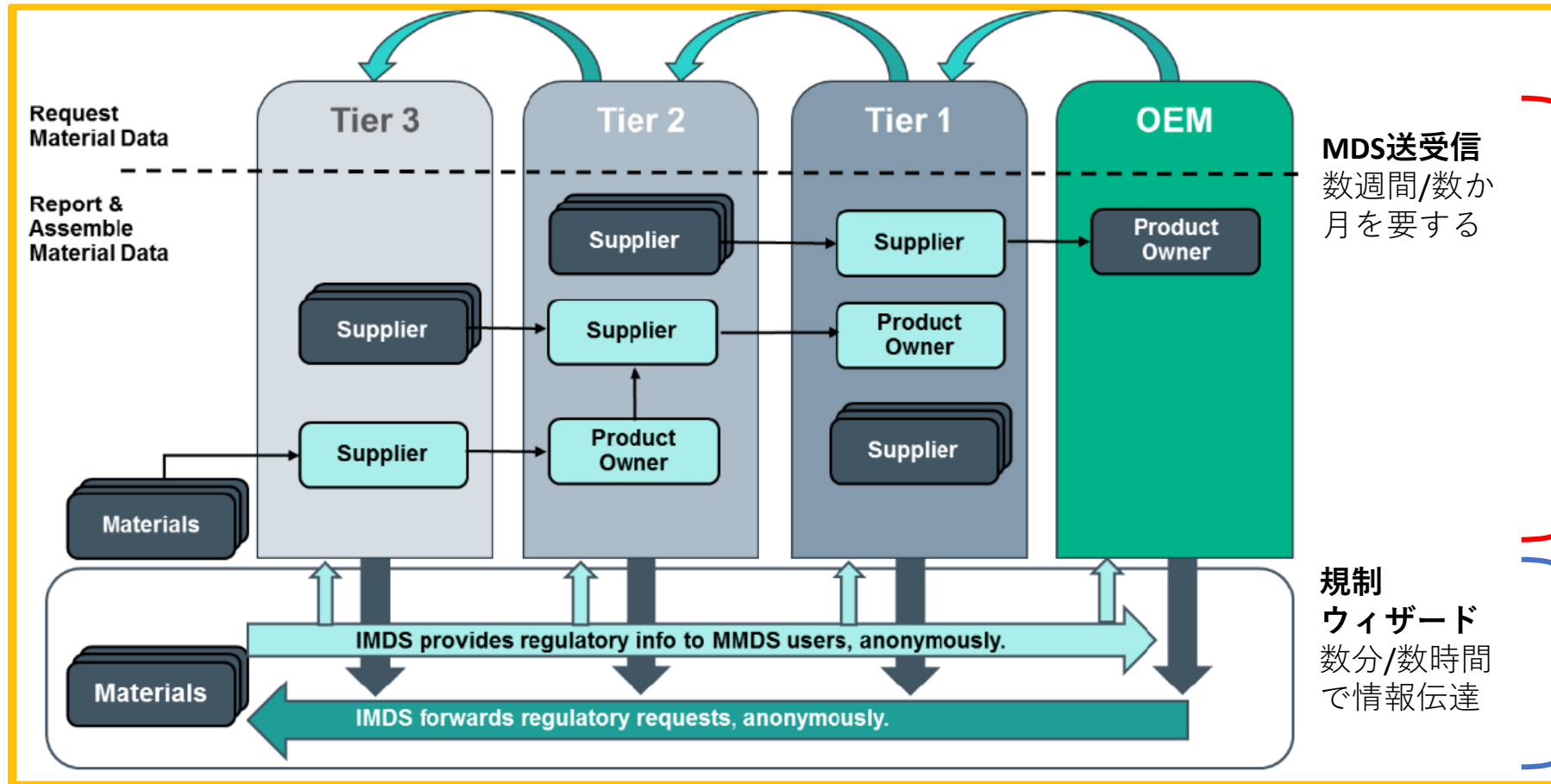


9-1. 規制ウィザードの仕組み

法規制に関する情報を特別なルートで素早く伝達する



- 規制ウィザードに入力された情報は、通常のデータシートの送受信プロセスを使用せずに、追加の規制情報を川上から川下まで直接伝達する仕組みです。



<関連する情報>
ユーザーマニュアル：7.1 概要

MDS(通常のデータシート)

- ・依頼元の登録依頼がサプライチェーンに沿って上流まで各企業を経由して伝わる
- ・上流が作成したデータシートは各企業が審査し承認/拒否を判断する

規制ウィザード

- ・MDSと異なり承認/拒否のプロセスは無い
- ・入力依頼は権限をもつ企業(データシートオーナー)に直接届く
- ・入力された情報はサプライチェーン全体に即時適用される
- ・誰が規制情報の入力依頼を発信したか、誰が規制情報を入力したかは匿名化される

図：データシートと規制ウィザードの伝達仕組みの違い (IMDSユーザーマニュアルver.15.2より抜粋)

9-2. 規制ウィザードで伝達できること

該当する法規制に関する情報を素早く伝達する規制ウィザード



- 2026年4月時点において、規制ウィザードでは材料に該当物質が含まれている場合、「BPR」、「EU REACH Annex XIV」、「MCCP」、「EUDR」の情報を入力することができます。
- 「EUDR」を除いた項目の入力は、2025年7月のリリース15.0以降は必須となっています。
- 規制情報の入力はデータシートのオーナーが行います。仕入先から受領したデータなど自身がオーナーでない場合は入力できません。修正が必要な過去データがある場合には、仕入先に依頼する必要があります。
- 規制情報の閲覧権限はデフォルトで全ユーザーに付与されますが、編集権限は個別に割り当てる必要があります。

表：規制ウィザードの入力項目

項目	主な設問内容	入力要否
BPR	材料中の物質が殺生物目的で使用されているか	必須
REACH Annex XIV	製品/材料がEEA(欧州経済領域)で生産されているか	必須
POPs (MCCP)	MCCP(中鎖塩素化パラフィン)の炭素鎖長、危険有害性について	必須
EUDR	材料中の物質が天然成分に由来するか	任意 (リリース15.2現在)

<ポイント>

- ・EUDRを除く規制情報の入力は必須です。未入力の場合には送信時にエラーが発生します。
- ・入力作業を行うユーザーには、カンパニーアドミニストレーターから編集権限を付与する必要があります。
- ・自身がオーナーでないデータシートについては入力できません。

<関連する情報>

ユーザーマニュアル：7.2 ユーザーの取り扱い ～ 7.7 構成情報画面
リリースノート 15.0、15.1（リンク：[リリース15.0](#)、[リリース15.1](#)）

アジェンダ

< 第2部 実践編 >

6. データシートの基本構造

6-1. データシートの構成

6-2. 化学物質が持つ情報

6-3. 材料データシートの作成

6-4. 循環材料を含む材料のソース

6-5. アプリケーションコード

7. データシートの送受信

7-1. データシートの送信とは？

7-2. 送信モードの違いと送信後の流れ

7-3. エラーチェック

7-4. データシートの転送

7-5. 受信したデータシートの取り扱い

7-6. データシートの責任

7-7. 送信済み・受信済みデータシートの検索

8. IMDSの役立つ機能

8-1. データシートの分析

8-2. Where-used分析

8-3. 権限設定

9. 規制ウィザード

9-1. 規制ウィザードの仕組み

9-2. 規制ウィザードで伝達できること

10. PCFの伝達機能

10-1. PCF (Product Carbon Footprint)の入力について

11. その他（関連サービス、用語集）

11-1. IMDS Connect

11-2. (付録) IMDS用語集



10-1. PCF (Product Carbon Footprint)の入力について

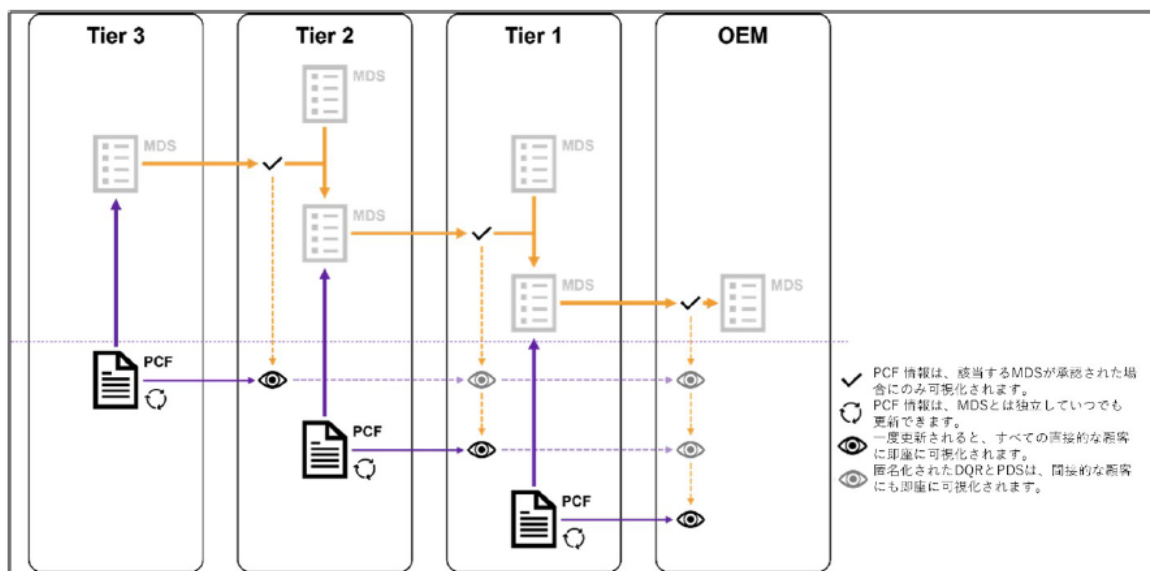
IMDSにはカーボンフットプリント情報の伝達機能もある



(レコメンデーション027「1. 免責事項」より抜粋)

PCFデータの報告はIMDSの要件ではオプションであり必須ではありません。しかしB2Bの契約要件によっては、IMDSでのPCF報告が義務付けられる場合があります。

- IMDSでは2025年7月のリリース15.0にてPCFデータを報告できるようになりました。
- PCFデータは「製品カーボンフットプリント」と「輸送カーボンフットプリント」の2つのセクションに分かれています。
- 入力されたPCFデータはデータシートを承認した直接の顧客だけがみることができます。例外としてDQRとPDSという一部の情報のみ、サプライチェーンも確認することができます。



図：PCFデータの伝達イメージ（IMDSレコメンデーション027より抜粋）

<ポイント>

- ・PCFデータの報告は必須ではありません。またPCFの入力有無を理由にデータシートを拒否することもできません。
- ・一部を除いて、入力されたPCFデータはデータの送受信関係にある直接の顧客だけが閲覧できます。

<関連する情報>

- ・ユーザーマニュアル：8 カーボンフットプリント(PCF)
- ・リリースノート 15.0（リンク：[リリース15.0](#)）
- ・レコメンデーション027「製品カーボンフットプリント(PCF)報告に関する規則とガイドライン」

アジェンダ

< 第2部 実践編 >

6. データシートの基本構造

- 6-1. データシートの構成
- 6-2. 化学物質が持つ情報
- 6-3. 材料データシートの作成
- 6-4. 循環材料を含む材料のソース
- 6-5. アプリケーションコード

7. データシートの送受信

- 7-1. データシートの送信とは？
- 7-2. 送信モードの違いと送信後の流れ
- 7-3. エラーチェック
- 7-4. データシートの転送
- 7-5. 受信したデータシートの取り扱い
- 7-6. データシートの責任
- 7-7. 送信済み・受信済みデータシートの検索

8. IMDSの役立つ機能

- 8-1. データシートの分析
- 8-2. Where-used分析
- 8-3. 権限設定

9. 規制ウィザード

- 9-1. 規制ウィザードの仕組み
- 9-2. 規制ウィザードで伝達できること

10. PCFの伝達機能

- 10-1. PCF (Product Carbon Footprint)の入力について

11. その他（関連サービス、用語集）

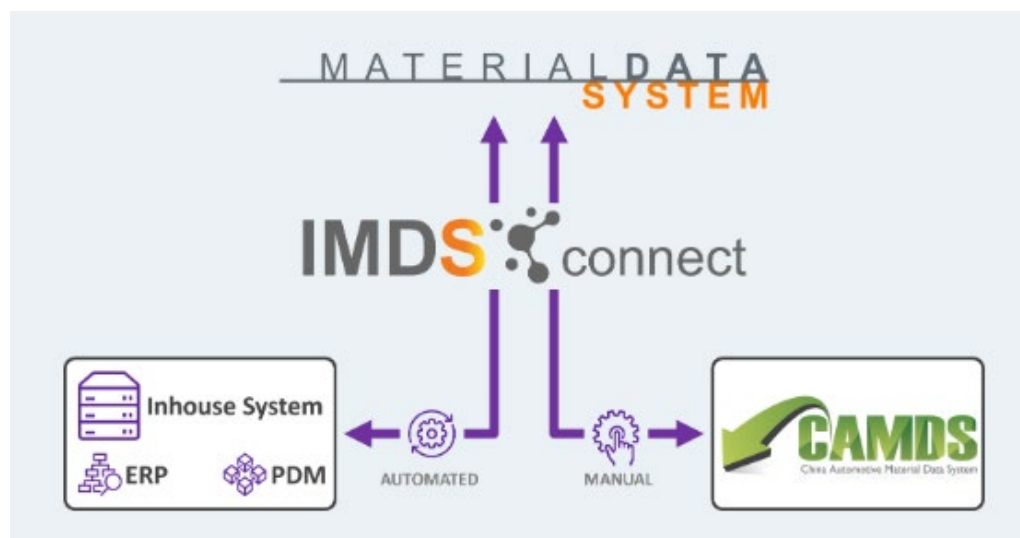
- 11-1. IMDS Connect
- 11-2. (付録) IMDS用語集



11-1. IMDS Connect

IMDSと社内システムを連携させるオプション機能

- IMDSの基本的な利用に料金はかかりませんが、別途契約することで使用できる追加のサービスがあります。代表的なものが「IMDS Connect」です。
- IMDS ConnectはWeb上のIMDSと社内システムを連携させるツールです。
- ダウンロード機能で社内システム内にIMDSデータシートの情報（部品構成、含有化学物質情報など）を取り込んで管理したり、アップロード機能で社内システムから直接データシートを作成することができます。
- その他、中国の自動車業界で使用されるCAMDSと連携させることもできます。



図：IMDS Connectのイメージ（右記HPより抜粋）

< 関連する情報 >

- IMDS Plus Portfolio
([IMDS Information Pages - IMDS Plus Portfolio - IMDS Public Pages](#))
- IMDS Connect
([IMDS Information Pages - IMDS Connect - IMDS Public Pages](#))



11-2. (付録) IMDS用語集

IMDS特有の用語・表現を理解する

- IMDSにはJAPIAシートには無い、特有の用語や表現が使われることがあります。
- より理解を深めるために、主要な用語について用語集を作成しました。

IMDS勉強会 用語集

	用語	意味
1	IMDS	「International Material Data System」の略。自動車業界で使用される材料データ管理システム。世界中の自動車メーカーやサプライヤーが、部品や製品に含まれる材料情報を登録・共有するために利用する。
2	DXC	IMDSの運営・管理を担当しているDXC Technology社を指す。IMDSのシステム開発・保守、ユーザーサポート、規制対応の更新などを行う。
3	カンパニーアドミニストレーター	自社のユーザー登録や企業アカウントの管理権限を持つ責任者。IMDSを利用する企業は必ず1名以上のカンパニーアドミニストレーターを設定する必要があり、ユーザー管理登録や権限設定を担当する。
4	コンタクトパーソン	自社のデータシートについて法的な責任を負う責任者。IMDSを利用する企業は必ず1名以上、コンタクトパーソンを設定する必要がある。コンタクトパーソンの情報は他社に送信したデータシートにも表示され、他社からの問い合わせに関する窓口としての役割も持つ。
5	ユーザー	企業アカウントに登録され、IMDSを操作できる個人。カンパニーアドミニストレーターによって作成・管理され、権限に応じてシステム内で様々な操作を行う。
6	データシート	正式名称はMDS (Material Data Sheet)。部品や材料、含有物質に関する情報をツリー状 (ノード構造) で表したデータ。
7	デフォルトコンタクト	企業アカウントで標準的な連絡先として設定される担当者。データシート送信や承認に関するやり取りで、特にコンタクトパーソンの指定がない場合に表示される連絡先。

< 関連する情報 >
ユーザーマニュアル：33 用語説明

図：用語集より一部抜粋



正しくIMDSを使って、実りある化学物質管理を

IMDSは自社だけで運用できるものではありません。関連する顧客やサプライヤと協力して正しく運用できてこそ、トレーサビリティや法令遵守に活用できる真価を発揮します。

そのためには、自社内および仕入先への教育を継続していくことが必要不可欠です。

IMDSは使えば使うほど、データが集まれば集まるほど、その情報を解析して大きな恩恵を受けることができるツールです。

はじめの一步は敷居が高いかもしれませんが、本講座がその一步を踏み出すきっかけとなれば幸いです。

Get started with IMDS!

